

会長に市瀬武彦氏が3選

02年に統合後 飯田医師会が初の投票

統合後、初の投票決戦となった飯田医師会の会長選が16日、飯田市錦町のシルクホテルで開かれた臨時総会であり、現職の市瀬武彦氏(66)＝市瀬整形外科＝が、副会長の波多野剛之氏(60)＝波多野医院＝を破り、3選を果たした。市瀬氏は「粉骨碎身の思いで任務を尽くす」と決意を語った。

会員の医師277人、157人が投票。結果、56票の波多野氏のうち、本人出席した市瀬氏が92票を獲得を退けた。白票は9票あった。



飯田医師会会長選で初の投票

投票に先立つ演説で市瀬氏は、2期4年の会長職を振り返り「地域住民の安全、安心」を柱に据え、広報活動の充実や包括医療協議会と連携した大規模災害訓練の実施、県議会や行政との懇談会などに力を入れた実績を強調。「情熱を持って、会を運営してきた。今後、も強固な協力関係を維持し、会を運営できると自負している」と支持を訴えた。

一方の波多野氏は「一方の波多野氏は集・伝達体制の確立、」会員間が顔の見える「会員間が顔の見える良きパートナーになることが、より良い地域医療体制を築く。今までの以上に機能をアップし、開かれた医師会にしたい」と述べ、災害時を想定した情報の収め、2008年4月か

出身。前身の飯田下伊那医師会時代の1996年4月から理事を務めた。市瀬氏は日大医学部出身。前身の飯田下伊那医師会時代の1996年4月から理事を務めた。市瀬氏は日大医学部出身。前身の飯田下伊那医師会時代の1996年4月から理事を務めた。

や例年を大きく上回った。総会議事では、来年4月からの一般社団法人化に関連した定款変更や移行認可申請、会計補正予算などの議案を審議し、いずれも原案通り承認した。

「選挙後も結束していく医師会であってほしい」「理事会で紛糾した事態もなく、今回の選挙に正直、特別な争点はないはず。ただし、このように意見を言える場ができたことで、より良い医師会づくりにつながれば。一方の市瀬氏の推薦人は

ら会長に就任している。新たな任期は4月1日から、新法人に移行する来年4月から同6月までに開く最初の定時総会までとなっている。



3選で決意を語る市瀬武彦会長

主張に確たる争点なく

正副会長の一騎打ち

飯田医師会として初の投票となった16日の臨時総会の会長選。臨時総会の会場は、例年の倍以上となる157人の医師たちが1票の行使に足を運ぶなど、熱気に包まれた。しかし、現職の正副会長による一騎打ちをめぐっては、前哨段階から「明確な争点があるのか」など疑問の声もあり、選挙後の結束力の強化を願う意見も出ている。

「なぜ交代が必要か?」回答と受け取れる表現があったのは推して論むべき」と述べ、

と語る地震が発生し、飯田下伊那地域では高森町で震度1の揺れを観測した。気象庁によると震源の深さは約50キ。地震